

ゴシック期に登場したウーブランドは、現在でも「ベリー公の豪華時禱書」などの写本画、絵画資料に当時の生き生きとした姿を見る事が出来る。ゴシックの豪華で奇抜な服飾の中でも独創性に富み、ゴシックの特徴的な服飾である。しかし、ウーブランドの発生や流行の展開については詳細を記したものがなかった。そこで本論ではウーブランドの発生や起源を探ると共に、男子、女子のそれぞれの流行の移り変わりや衰退の様子を追った。

資料としては、当時制作された写本、絵画資料、物語、チャーサーの批評文などの文献資料を用いて精神、経済、歴史、技術的観点から考察を試みた。

その結果、ウーブランドはまず男子のお洒落着として14世紀半ばから登場し、最も早期のものとして1342年の貴族が着用していたものを発見した。また、男子は1390年代に最も流行し、その流行を受けて1390年代の後半から女子のウーブランドが登場する。最も流行した時期は高い衿、広い袖口、長い裾を過剰に誇張した姿が見られ、装飾も宝石や毛皮の豪華な素材を使用するだけでなく、袖口を城郭風、葉状にカットするなど奇抜な独創生があり、同時代の他の服飾にも影響を与えている。また、同じ外衣であるマントが、peers robeや紋章を示し、形や装飾の変化のあまりない封建的色彩の強い服飾であったのとは対照的に、ウーブランドは個人的な好みや経済的豊かさを表現しており、当時の美意識の表れであると共に、この時代の人々の「生」への情熱そのものであったと言えるだろう。